

自動車リサイクル部品活用による新方法論で、自動車産業の脱炭素と循環経済を加速

世界初^{*1}の方法論策定 自動車リサイクル部品の活用によるCO₂削減効果を カーボンクレジット化へ

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合（本部：東京都港区、理事長：小林信夫）の関連会社、(株)NGP（本社：東京都港区、代表取締役：佐藤幸雄）は、(株)Linkhola（本社：東京都港区、代表取締役：野村恭子）が運営する民間主導の「EARTHSTORYボランティアークレジット制度」^{*2}において、新たな方法論「自動車パーツリサイクル」を策定しました。

本方法論は、NGPの産学共同研究データに基づき、これまで定量化が難しかった自動車部品の再利用（リユース）による「新品製造の回避に伴うCO₂削減効果」を可視化します。さらに、外部専門家の客観的なレビューと、制度運営委員会の厳格な承認を経て、世界で初めて自動車部品リユースによる環境価値をクレジット化し、市場取引を可能にしました。サプライチェーン全体での脱炭素（Scope3削減）を推進する企業にとって、信頼性の高い新たな削減手段となります。自動車産業全体の脱炭素経営と、サーキュラーエコノミー（循環型経済）の発展に貢献します。

■本方法論策定の背景と目的

世界的な脱炭素化の流れを受け、企業にはサプライチェーン全体のCO₂削減が求められています。新品部品の製造には資源

採掘、素材製造、加工、輸送など多くのエネルギーが必要です。一方、使用済み自動車から回収した部品を品質確認・美化したうえで再利用するリサイクルパーツは、新たな資源採掘や製造工程を大幅に削減できるため、環境負荷を低減できます。

NGPは全国の自動車リサイクル事業者で構成される組織として、リサイクルパーツの普及と品質確保に長年取り組んできました。2013年に富山県立大学・明治大学との産学共同研究を開始し、LCA（ライフサイクルアセスメント）に基づく算定手法を確立しています。現在では90部品（左右区別等を含め115部品）について独自のCO₂削減量算定が可能となっています。しかしこれまで、こうした削減効果を信頼性の高いカーボンクレジットとして評価・流通させるための方法論は、国内外に存在していませんでした。

そこで、独立した制度オーナーである「EARTHSTORY（Linkhola）」は、NGPの実証データ提供を受け、大学等との産学共同研究データ・運用実績を参考として、第三者審査に耐えうる客観的な算定ロジックを設計し、本方法論の開発・策定にいたしました。ルール策定者（制度オーナー）とプロジェクト実施者（NGP等）の独立性を明確に維持し、国際的なクレジットの

基準に準拠した方法論・制度ガバナンスを確立しています。

■新方法論「自動車パーツリサイクル」の概要

本方法論は、使用済み自動車から適切に回収・品質管理され、再び市場に供給された自動車パーツ（外装・機能部品等）の再利用を対象とします。

- ・対象活動：国内の使用済み自動車から適切に回収された自動車パーツ（リユース部品）の再利用。
- ・算定方法：対象パーツを「新品で製造・流通させた場合（ベースライン）」と、「リユース部品として美化・点検・流通させた場合」のCO₂排出量の差分を「削減量」として定量化。
- ・信頼性の確保：EARTHSTORYボランティアークレジット制度のもと、デジタル技術でデータの透明性・トレーサビリティを確保。独立した第三者審査機関による厳格な検証により、二重計上を防止。

■本方法論がもたらす2つの革新ポイント

1. 「部品」の再利用（リユース）を直接評価

破碎や製錬を伴う「素材リサイクル」と

^{*1}：自動車リサイクルにおける「部品リユース」を対象としたボランティアークレジット方法論の正式策定として世界初（Linkhola調べ、2026年5月時点）。

^{*2}：EARTHSTORYボランティアークレジット制度：Linkholaは、民間主導の「ボランティアークレジット制度」の制度オーナーとして、申請・審査・発行までをワンストップで提供する独立したプラットフォーム「EARTHSTORY」を運営しています。最大の強みは、デジタル技術をベースとした自動化と最適化された制度設計により、最短3ヵ月という国内最速クラスで高品質なカーボンクレジットを発行・流通できるガバナンスシステムです。既存のJ-クレジットや海外ボランティアークレジット制度等でカバーされていない革新的な温室効果ガス削減・吸収アプローチに対し、客観的なデータ提供に基づき新方法論を迅速に構築します。国内外の多様なプレイヤーに対して、ボランティアークレジットの創出・販売を通じた環境価値のマナタイズおよびESGビジネスの成長を支援しています。

は異なり、形状・機能を保ったまま再利用する「部品リユース」そのものを評価します。新品の製造を代替するため、製造時の膨大なエネルギー消費とCO₂排出を直接、大幅に回避します。

2.自動車産業全体のScope3対策ニーズと自動車リサイクル産業の持続的発展

創出された高品質なクレジットは、サプライチェーンでの排出削減を推進したい自動車産業関連企業が購入・活用します。その収益が自動車リサイクル事業者に還元されることで、リサイクル部品の更なる品質向上・流通拡大につながり、業界全体の持続的発展を後押しします。

■NGPがCO₂削減量を独自算定している部品について

本方法論の開発には、NGPによる長年

の学術的取り組みがベースとなっています。LCA（ライフサイクルアセスメント）の評価手法を用い、「新品部品の製造プロセス」と「リユース部品の商品化（取り外し・点検・美化）プロセス」のCO₂排出量を評価する高精度な独自の算定評価方法をシステムとして確立しています。外装・ボデー系、ライト・ミラー系、機能・駆動・足回り系、電装・エアコン系など、多岐にわたるカバー率が本方法論の実効性を支えています。

■今後の展望

NGPとLinkholaは、2025年冬頃から本方法論の策定検討を開始し、外部の環境専門家による客観的レビューと、EARTHSTORY制度運営委員会の厳正な審査を経て、2026年5月27日に正式策定にいたしました。

今後、NGPは90部品のうち一部の部品を対象に、本方法論に基づいた「第1号クレジット創出プロジェクト」の申請および登録プロセスを始動します。自動車パーツリユースを対象とした世界初のクレジットとして、2026年秋頃の発行を目指します。

また、NGPは組合全体の取り組みとして、2030年までに、処理台数1,000万台、リユース等2,000万点、CO₂削減量50万t-CO₂の達成を目指しており、本方法論はその実現に向けた重要な基盤となります。

創出されたクレジットは、サプライチェーン全体での脱炭素に取り組む企業による活用が期待されます。Linkhola及びNGPは、本方法論の普及を通じて、自動車産業におけるサーキュラーエコノミーの推進と脱炭素社会の実現に貢献してまいります。

各社コメント



株式会社NGP 代表取締役

佐藤幸雄 氏

当社はこれまで「自動車リサイクルを通じて地球環境に貢献する」という理念のもと、リサイクルパーツの普及に努めてまいりました。今回、NGP日本自動車リサイクル事業協同組合及び当社が長年積み上げてきたリサイクルパーツの流通実績や、大学等との共同研究によるCO₂削減効果の算定データをもとに、Linkhola様が運営するEARTHSTORY制度において、新方法論「自動車パーツリサイクル」が策定されたことを大変嬉しく思います。これにより、リサイクルパーツの活用による環境貢献を、客観的なCO₂削減量として可視化し、ボランティアクレジットという新たな環境価値として評価する道筋が開かれました。今後も全国の会員企業とともに、リサイクルパーツのさらなる普及を進め、自動車産業におけるサーキュラーエコノミーの推進とカーボンニュートラルの実現に貢献してまいります。



NGP日本自動車リサイクル事業協同組合 理事長

小林信夫 氏

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合は、全国の組合員とともに、使用済み自動車の適正処理とリサイクルパーツの生産・流通に取り組んでまいりました。自動車リサイクル部品の活用は、限りある資源を有効に使うだけでなく、新品部品の製造を回避することによるCO₂削減にもつながる重要な取り組みです。今回、自動車リサイクル部品のCO₂削減効果をボランティアクレジットとして評価する方法論が策定されたことは、私たち自動車リサイクル事業者の取り組みが、社会的・環境的な価値としてより明確に認められる大きな一歩であると考えています。今後も組合員一丸となって、適正処理、リサイクルパーツの品質向上、流通拡大に努め、持続可能なモビリティ社会の実現に貢献してまいります。



株式会社Linkhola 代表取締役

野村恭子 氏

(環境学博士)

日本における自動車リサイクルと脱炭素の可視化の先駆者であるNGP様から高度な実証データの提供を受け、中立なクレジット制度運営主体として、世界初の画期的な方法論「自動車パーツリサイクル」を策定できたことを誇りに思います。大量生産・大量消費によるCO₂排出時代、AI・自動化の時代において、日本の「もったいない精神」と「手工業職人の技術」は単なる節約ではなく再定義、注目に値します。修理して使い続ける文化・価値観、技術の継承、サーキュラーエコノミーの文脈において、部品の再利用は『優先されるべき脱炭素アプローチ』の一つです。本方法論を通じて、客観的かつ適切に環境価値を評価し、ボランティアクレジット市場を通じて自動車リサイクル産業の活動を強力に支援してまいります。

自動車技術の最先端と将来像を提示

最先端の自動車技術が一堂に会する「人
とくるまのテクノロジー展2026YOKO
HAMA」（主催：自動車技術会）が5月
27～29日の3日間、パシフィコ横浜（神

奈川県横浜市）で開催されました。

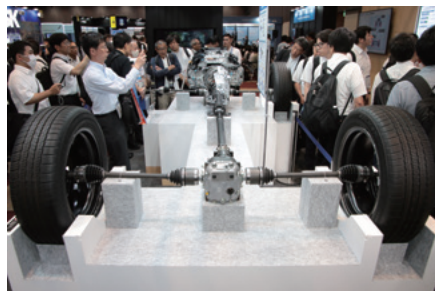
リアル開催が33回目となる今回は、過
去最多を記録した前回より5社少ないもの
の46小間多い612社・1,516小間の出展

規模となりました。3日間合計の来場登録
者数は前回より685人多い80,493人を記
録しました。



スズキ

軽トラック・スーパーキャリイをベースに、農作業
時や移動時に発生するCO₂を回収する装置を車体後
部に搭載した「カーボンキャプチャーキャリイ」を
参考出品



SUBARU

「S:HEV」パワートレインの実機を展示。左右対称の
「シンメトリカルAWD」を継承するなど同社ならで
はの特徴を強く訴求



ダイハツ工業

軽BEV商用バン・e-アトレーの実車を展示し、新開
発のBEVシステムやガソリン車と同等の積載能力な
どを訴求



トヨタ自動車

新型6代目RAV4 PHEV Zの実車に加え、同車に搭載
されているA25A-FXS型2.5ℓ直4エンジン+フロン
t eアクスルのカットモデルを展示した



トヨタ車体

現行ヴェルファイアのカットボディを公開し、前側
を衝撃吸収部位とした「クラッシュプルAピラー」や
「フロントパフォーマンスブレース」の装着部位など
を披露



日産自動車

アリアをベースにAIドライブ技術を実装した「次世
代プロパイロット」開発試作車を披露。また、新型4
代目エルグランドに搭載予定の「第3世代e-POWER」
なども公開した



本田技研工業

5月22日に発売された小型BEVホットハッチ・スー
パーワンと家庭用充電器「ホンダV2Hスタンド」
の実車・実機を出品



マツダ

5月21日に発売された新型3代目CX-5の、同車が初
採用となる新開発色・52Mネイビーブルーマイカで
塗装された実車を展示



三菱自動車工業

1月9日に大幅改良されたデリカD:5のカットモデル
を公開。2007年のデビュー当初より採用されている
キャビン周辺の環状骨格構造などが見やすい形で展
示された

NGP 今月のCO₂削減量



リサイクル部品利用に伴うCO₂削減量

令和8年5月：

1,756t

※自動車リサイクル部品産業共同研究会が、「自動車リサイクル部品による環境負荷低減効果の研究」の結果をもとに、NGPが販売したリユース部品の90品目（左右ある部品を含むと115品目）と、リビルト部品の3部品を対象に算出した数値です。



リターンブル梱包材利用に伴うCO₂削減量

令和8年5月：

0.1t

※リターンブル梱包材の利用に伴う削減効果はNGP協同組合独自のCO₂排出量削減の取り組みです。段ボールに代えて、専用梱包材を繰り返し使用することを前提に削減効果を算出してあります。



(株)NGPは6月25日、ビジョンセンター品川（東京都港区）で、令和8年度NGP提携リビルトメーカー第37期方針説明会を開催しました。

冒頭の挨拶で佐藤幸雄社長は、出席した提携リビルトメーカー各社の担当者へ向けて日頃の協力に対する感謝の意を伝えました。その上で「皆様のお陰を持ちまして、昨期、今期のリビルトの売り上げがアップできたことに心から感謝申し上げます。今回は趣向を変えて方針説明

会とし、皆様と率直な意見交換を行い、相互の発展につながる時間にしていきたいと考えています」と会議の意図を説明しました。続いて、NGP協同組合の小林信夫理事長は、「将来に向けて、しっかりと議論を深めることが重要です。また、積極的に活動している企業が適切に評価されるように、仕組みや体制を整えていきたいと考えています」と挨拶し、参加者にさらなる協力を呼びかけました。

会議では、組合員のリビルト製品の提



携内仕入れ状況、NGP第37期方針説明などをテーマに話し合いが行われました。

NGP、第21回 NGP 香川県豊島環境保全・再生活動を実施 岡山大学との産学連携で、豊島の植生回復を目指す

NGP協同組合は5月28・29日の2日間、香川県豊島にて環境保全・再生活動を行いました。第21回目となる今回は、前回に引き続きNPO法人瀬戸内オリーブ基金が推進する“ゆたかなふるさと100年プロジェクト”において、岡山大学大学院環境生命科学研究科の嶋一徹教授との産学連携による豊島植生回復活動のボランティアとして活動を行いました。

今回は、組合員及び本部職員13人に加え、一般社団法人日本トラックリファインパーツ協会（JTP）から7人が参加し、総勢20人で活動に取り組みました。NGPとJTPは、「大型自動車リサイクル部品の環境負荷低減効果に関する産学共同研究」に取り組んでいます。同じ自動車リサイクル事業者として、豊島の環境保全活動に貢献したいとの想いから、昨

年に続き共同で活動しました。

今回は、産業廃棄物不法投棄現場を見渡せる展望台周辺の環境整備と、岡山大学による植生回復活動研究地の除草作業などを行いました。また、初参加となる5人のメンバーは不法投棄現場を見学し、「豊島事件」の歴史を学ぶとともに、本活動の意義についての理解を深めました。

今回の活動を通じて、自然環境の再生には長い年月と継続的な取り組みが必要であることを改めて実感しました。植生回復の現場では少しずつ変化が見られる一方で、その成長を支えるためには定期的な除草や環境整備が欠かせません。豊島本来の自然を取り戻すためには、人の手による地道な支援を積み重ねていくことが重要です。

豊島で起きた不法投棄事件による環境



被害は、今なお完全に回復したとは言えません。NGPは今後も瀬戸内オリーブ基金、岡山大学と協力し、「豊島事件」の教訓を風化させることなく、環境保全・再生活動と3Rの大切さを後世へ伝える活動に取り組んでまいります。

組合員情報変更

支部	会社名	変更内容	変更後	変更日
中四国	ウエイフパーツ 有限会社和気商店	商号	ウエイフパーツ 株式会社和気商店	2026年5月1日

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0075 東京都港区港南2-12-32 サウスポート品川4F
TEL:03-6705-1208 FAX:03-6705-1209
<https://www.ngp.gr.jp/>

株式会社NGP

〒108-0075 東京都港区港南2-12-32 サウスポート品川4F
TEL:03-6705-1212 FAX:03-6705-1201
<https://www.ngp.co.jp/>